



私も京都外大図書館を応援します(5)  
永遠のテーマは  
「花鳥風月」

あさ えだ      みん   じ  
朝枝      民二さん



「写真家として身近なところで自然の美を見つけ出して、様々な形で伝えていきたい」と言われる氏のご厚志に感謝をしながら、本学図書館で多くの個人作品を使わせていただいていた。平成12年には、京都を舞台にした日本文学の外国語翻訳書(洋書)を集めて作ったデータベース「古都の雅をもとめて 世界で読まれる京都の文学」の画面を、氏の写真シリーズ「京の四季」や「京の匠」で美しく飾ることができた。

また、今年の2月には、京都議定書発効一周年を記念して作ったデータベース「地球環境を守るために」の雰囲気盛り上げたいことから、名作ばかり10点を拝借した。「提供させていただいた写真の中で、もしかしたら、お使い頂けるかなと思っていたものが、まさに使われました」と笑顔で語られる。このデータベースの冒頭を飾らせていただいた写真は、「水平線に僅かに残った夕日を受けて、赤く染まった薄雲や半ば暗くなった海面と陸地を捉えてみました」と語られる「能登残照」という作品で、データベースの作成と共に新聞でも大きく紹介された見事なものである。「写真を自己満足で終えてはいけません。お役に立つことだったら有りがたい。主旨に賛同したことから、ぜひ使ってもらいたいと思いました」。お陰さまで、データベース内の検索項目と自然環境をとりあげた写真が合致して、アクセスする人に臨場感を与えてくれる。

本学図書館と氏のお付き合いは古く、約20年ほど前にプロの写真家として所属されていた会社を通じて『図書館利用のしおり』の写真を撮影していただいた時からである。その後、本学からの依頼で完成して間もない頃の森田記念講堂を撮影されたこと、また図書館西側の「静かの庭」の桜にもベスト・ショットを求めた思い出を語られる。個人的には何度も写真展を開かれており、本学図書館では氏から賜った数々のご助力に感謝する意味から、その個展の開催をホームページで紹介したこともある。

お父上が映画の美術監督や画家をされていた影響もあってか、美術や映像には厳しい目で臨まれる。最近、自然と鷲をとりあげた自らの写真集『翔 You are Beautiful』を刊行され、本学図書館にも寄贈していただいた。洛西の四季を背景に氏の永遠のテーマ「花鳥風月」に迫った見事な作品集である。

「写真を愛し、撮影している時が最高です。」とご本人にとって、この時間が「至福の時」であることを強調される。「これからも写真を通じて“美の追求”をライフ・ワークとして続けていきたいと考えています。また、機会が得られ外大図書館のお手伝いできれば有りがたいと思います」。嬉しいお言葉をいただき、本学図書館としても氏のご協力がいただける新しいデータベースの作成を考えたいものである。

.....

写真家。趣味は美術・映像鑑賞と書物収集、読書。

(文・奥 正敬)